令和２年５月22日

九州電気専門学校
校長　渡辺征夫　殿

学校関係者評価委員会
委員長　　山本久信

学校関係者評価委員会報告

令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１　学校関係者評価委員
①　山本久信（福岡ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ専門学校　広報部長）
②　池田良司（九州電力送配電㈱送変電本部　工務部長）
③　宮崎昌英（㈱九電工　人事労務部長）
④　八尋　茂（福岡電材㈱　代表取締役）

２　学校関係者評価委員会の開催
・令和２年４月７日（会場　九州電気専門学校　301教室）

３　学校関係者評価委員会報告
別紙のとおり

以　上

別　紙

学校関係者評価結果

学校関係者評価委員会において、令和元年度自己評価報告書に関し、全ての項目において確認を行った。

評価委員会の主な意見は以下のとおりである。

（1）教育理念・目標

・入学式などで保護者と担任とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを取り、取組や支援について理解と信頼を得るようにするとともに、別途、保護者会を実施してはどうか。
また、保護者への通信内容の充実とともに、いつでも相談できる環境作りも大切だと思う。

（2）学校運営・・・＜課題：コンプライアンス体制＞

・特別なものではなく、一般的に言われている内容での体制でよいのではないか。

（3）教育活動

・企業での教育では現場での経験が効果的だと思うが、安全面などを考慮すると、保険の適用など様々な検討が必要かもしれない。
・サイエンス授業(例：「でんじろう」)など興味を示すような取組みはどうか。
見えない電気を楽しく見せることで募集にも繋がっていくと思う。
・特に教員の資格を持っていなくても、一生懸命、学生対応に取り組み、厳しく、継続的に指導することで保護者は納得してくれると思う。
・非常勤の先生には多くを求められないと思われるので、常勤の先生が十分にフォローをしていく必要がある。

（4）学修成果

・卒業生の何人かを選定し追跡調査するとともに、アンケートだけでなく、同窓会との連携も図ってはどうか。
・同窓会の参加者は高齢者が多く、若い人が集まらない状況であり、卒業生との連携は会の活性化面でも必要。

（5）学生支援

・メンタル面の支援は、専門家に任せないと無理なので、専門医を紹介するなどした方がよい。
・同窓会の総会で卒業生を紹介するなど、情報交換する場として同窓会を活用してはどうか。
・工事業界では、第 2 新卒（新卒後 2～3 年）や中途採用も積極的に採用しており、紹介してはどうか。採用する側も、リクナビ・マイナビなどの第 2 新卒向けのサイトを利用している。

(6)教育環境
・施設等は古いが、大変きれいに整理整頓されている印象。

(7)学生の受入募集・
・受入募集のプロセスについての評価としては適切と考える。

(8)財務
・財務は、入学者が増えなければ、改善することは出来ないので、入学者確保の検討が必要。
他は経費削減等しかない。

(9)法令等の遵守
・特になし

(10)社会貢献・地域貢献
・ボランティア活動だけが社会貢献ではなく、国家資格を取得して、卒業させ、技術者を世に送り出すことも社会貢献に繋がるものと思う。

(11)国際交流
・現状の技能実習生とは違ったやり方が必要と思われる。

＜委員長総括＞
教育内容・実習環境は、素晴らしいと感じた。
ただ、学校としては、今後も存続していくことが大事であり、そのためには学生の募集が第一。
結果としての電験三種、第一種電気工事士の更なる資格取得が重要であり、国家資格の合格率向上が、存続に必要である学生の募集に繋がるものと思う。

以　　上

学校関係評価表（令和元年度学校関係者評価委員会）

評　価　項　目	適切･･･4、　　ほぼ適切･･･3 やや不適切･･･2、不適切･･･1	平　均　点
(1)教育理念・目標	4　3　2　1	4.0
(2)学校運営	4　3　2　1	3.5
(3)教育活動	4　3　2　1	3.8
(4)学修効果	4　3　2　1	3.8
(5)学生支援	4　3　2　1	3.8
(6)教育環境	4　3　2　1	3.5
(7)学生の受入れ募集	4　3　2　1	3.8
(8)財務	4　3　2　1	3.8
(9)法令等遵守	4　3　2　1	3.8
(10)社会貢献・地域貢献	4　3　2　1	3.5
(11)国際交流	4　3　2　1	3.0
総　　合	4　3　2　1	・(1)～(11)の平均 3.6 ・総合の平均　　3.8

（全体に対するコメント）

○学校評価のポイントとしては３つ（入口、中身、出口）あるが、具体的には、

① 入口の広報は非常によくやっているが、結果として定員充足に至ってないことから、対応として、広報のポイントを絞る、国家資格合格や就職の実績をアピールする、中高生や既卒者への公開講座実施など電気のおもしろさを教えること等が挙げられる。

② 中身の教育内容は充実しており、後は産学連携による企業施設を利用した実習等を充実してはどうか。

③ 出口においては、国家資格合格率は全国平均を上回っており、就職内定率も高いことから、このことを強くアピールして募集に繋げる工夫が必要。更に、この実績の底上げが必要であり、国家資格の受験者数を増やすことも大事。また同窓会（舞鶴会）とも連携するなど、卒業生への支援も必要。

○開学の精神が本校の第一原理であり、すべての評価項目は、この原理に沿っておくべき。教育理念や就職は適切だが、財務基準は安定しておらず、原因は学生数の減少なので、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集を再考する必要がある。最終的に全ての項目が学生数増加に繋がる結果を出せるようにすべき。

○学校運営では、目指すべきコンプライアンス体制を定める必要がある。また、国際交流では、学校方針として国内をベースと定めるなら無理に対応する必要もないと考える。地域社会に生かされているという視点からも、優秀な学生を社会に持続的に供給する体制づくりを進めて頂きたい。

○それぞれの項目に対する課題認識は、確実に取組み成果を出していただきたい。